

第64回宮崎県学校体育研究発表大会

中学校部会

1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習
～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日程・会場

| | | | | | | | | | |
|--------------|-------|-------|----------------------|------------------|------------------|-------------|-----------------|-------------|-------|
| 10月27日(金) | 中学校部会 | 9:20 | 10:00 | 11:05 | 15:05 | 15:45 | | | |
| | | 8:50 | 9:50 | 10:50 | 11:55 | 12:40 | 14:50 | 15:40 | 16:00 |
| | | 受付 | 研究発表 開会行事 視点説明 | 授業発表 I (つながり) | 授業発表 II (各部会) | 昼休準備 食憩備 | ワークショップ 授業研究 | 各地区 研究発表 | 閉会行事 |
| | | (30分) | (50分) | (50分) | (130分) | (35分) | | | |
| 会場：串間市民総合体育館 | | | | | | | | | |

中学校部会

① 授業発表

| | 学 年 | 単 元 | 発 表 者 |
|-------------|------|----------------------|-----------------------|
| I (つながり) | 第1学年 | 球 技 (ネット型：バドミントン) | 串間市立串間中学校 教諭 尾崎城夫 |
| II (地区) | 第3学年 | 保 健 (健康と環境) | 日南市立吾田中学校 教諭 田中美津子 |

② ワークショップ型授業研究

| 役 職 名 | 氏 名 |
|-------|-------------------------|
| 指導助言者 | 宮崎大学教育学部 教授 日高正博 |
| | 宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 西田英司 |
| 司会者 | 西都市立都於郡中学校 教諭 金丸宜弘 |
| 記録者 | 宮崎市立清武中学校 教諭 日高雅友 |
| | 都城市立妻ヶ丘中学校 教諭 新名悠紀 |
| 進行 | 延岡市立北川中学校 教諭 原田卓弥 |

③ 地区研究発表

| | 【 地 区 】 研究発表題目 | 発 表 者 |
|---|---|---------------------------|
| 1 | 【西臼杵】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 ～ICT機器を活用した効果的な指導方法について～ | 日之影町立日之影中学校 教諭 甲斐一成 |
| 2 | 【延岡】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 | 延岡市立西階中学校 教諭 徳淵 喬 |
| 3 | 【東臼杵】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 | 美郷町立美郷北義務教育学校 教諭 佐藤 浩行 |
| 4 | 【西都・児湯】 共生の視点に立ったソフトボールの指導方法の工夫 | 新富町立富田中学校 教諭 古木 悠貴 |
| 5 | 【西諸】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 | 小林市立三松中学校 教諭 岡上 桂 |

1 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習
～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 主題設定の理由

令和3年1月23日に行われた中央教育審議会(以下「令和3年答申」という。)の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」では、「人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。また、学習指導要領の改訂に関する「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(以下「平成 28 年答申」という。)においても、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきていることが指摘されたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が現実のものとなっている。このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。」と見解を示した。ここでいう資質・能力の中に「教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力」と「対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」がある。これは、学習指導要領に示されている三つの資質・能力のうち、「思考力、判断力、表現力等」の内容に関連するものと考えられる。また、中学校学習指導要領解説 保健体育編、2 保健体育科改訂の趣旨及び要点の中の平成20年改訂の学習指導要領の課題には、「知識及び技能」についての課題はなく、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」についての課題が挙げられている。

「思考力、判断力、表現力等」は、4つの領域で構成されている。「運動に関する思考力、判断力、表現力等」「体力、健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」「生涯スポーツ実践に関する思考力、判断力、表現力等」の4つであるが、本地区では「運動に関する思考力、判断力、表現力等」についての授業研究は盛んに行ってきたものの、その他の「思考力、判断力、表現力等」の授業研究は行ってこなかった。保健分野に至っては「思考力、判断力、表現力等」のうち「表現力」に関して授業研究を深めることができていなかった。

以上のことを踏まえて、「思考力、判断力、表現力等」に焦点を当て、これまで行えていなかった部分に着目し、研究を進めることによって、保健体育科の課題解決に迫れるのではないかと考え、主題、副題の設定に至った。

3 研究仮説

保健体育科学習において、「思考力、判断力、表現力等」を柱とし、指導と評価の一体化や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を展開することによって、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、運動やスポーツを「する」「見る」「支える」「知る」等の豊かなスポーツライフを実現し、運動を継続するための生徒の育成に繋がっていくものと考えられる。

4 研究の内容

(1) 指導と評価の一体化

- 指導内容の系統化⇒学習内容系統表及び学習内容相関図の作成及び活用

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- 思考ツール活用⇒思考ツール活用事例集の作成(保健編)

(3) 共生の視点に立った指導内容の工夫

- 教材・教具の工夫⇒ハンディキャップゲームの開発・教具の開発

5 研究方法

① 地区研究推進委員会での指導案検討及び教材・教具の工夫

② 第1回地区研究部会 ⇒ 第1学年 球技 ネット型 バドミントン 研究授業

授業者:日南市立南郷中学校 教諭 中屋敷 卓

③ 第2回地区研究部会 ⇒ 午前の部:宮崎県学校体育研究発表大会の授業者による模擬授業

授業者:串間市立串間中学校 教諭 尾崎 城夫

授業者:日南市立吾田中学校 教諭 田中 美津子

午後の部:体育班・保健班に分かれて思考ツール事例集の作成

④ 宮崎県学校体育研究発表大会

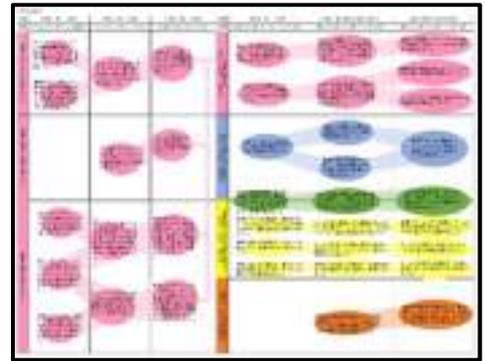
- ・ 第1学年 体育分野 E 球技 ネット型 バドミントン 授業者:串間市立串間中学校 教諭 尾崎 城夫

- ・ 第3学年 保健分野 「健康と環境」 授業者:日南市立吾田中学校 教諭 田中 美津子

6 研究の実際

(1) 指導と評価の一体化・・・学習内容系統表及び学習内容相関図の作成及び活用について

「思考力、判断力、表現力等」に焦点を当て研究を進めるにあたって、はじめに指導内容の系統化を図るために学習内容系統表を作成した。小学校段階では、「運動に関する思考力、判断力、表現力等」のみの学習内容であり、中学校段階から「体力、健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」「生涯スポーツの実践に関する思考力、判断力、表現力等」の学習内容が表れ、思考力、判断力、表現力等に広がりが出てくるようになった。

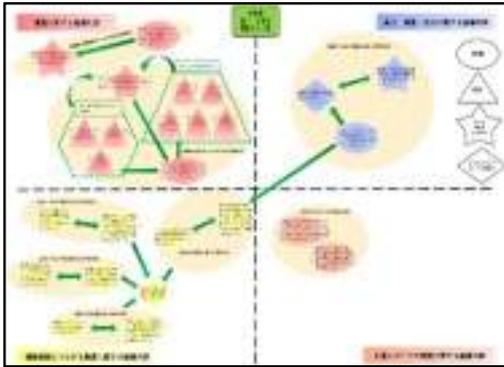


【学習内容系統表 思考力・判断力・表現力等編】

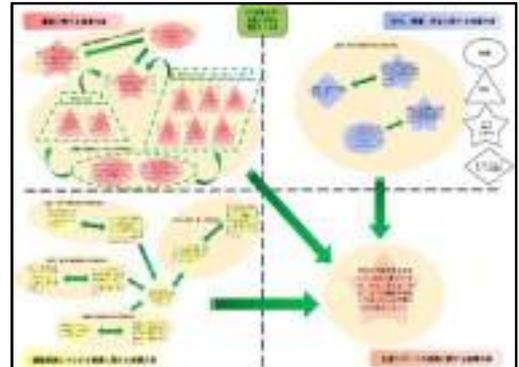
しかし、この学習内容系統表は校種間での縦のつながりを段階的に表しているものにすぎず、単元計画を作成する上でこれを応用するには不十分であると考えた。研究を進めていく中で、「思考力、判断力、表現力等」は、「知識及び技能」や「学びに向かう力、人間性等」と密接な関係性があることがわかった。平成20年改訂の学習指導要領の課題にあった「習得した知識や技能を活用して課題解決すること」という内容から次のような学習の順序が成り立つのではないかと考えた。



この学習の順序を活かして、それぞれの学習内容の関係性を分類、整理し、順序を矢印で記したものが学習内容相関図である。



【第1・2学年 球技 ネット型 学習内容相関図】



【第3学年 球技 ネット型 学習内容相関図】

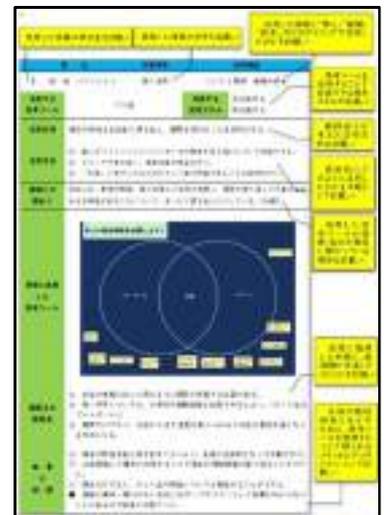
この学習内容相関図を活かし単元計画の作成を行った。学習内容の順序を踏まえて指導内容を設定し、評価機会の設定においても指導と評価の一体化が図れるように単元構造図を作成した。

| 単元 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|------|---------|-------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 指導内容 | ボールの扱い方 | パスの練習 | ドリブルの練習 | シュートの練習 | ゲームの実践 |
| 評価内容 | ボールの扱い方 | パスの練習 | ドリブルの練習 | シュートの練習 | ゲームの実践 |
| 評価機会 | 授業中 | 授業中 | 授業中 | 授業中 | 授業中 | 授業中 | 授業中 | 授業中 | 授業中 | 授業中 | 授業中 | 授業中 |

- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善・思考ツールの活用及び事例集作成について
 本地区は、昨年度から思考ツールを活用し研究を行ってきた。当初は、保健分野において思考ツールの活用を行ってきたが、体育分野においても効果的な実践をしてみようと様々な種類のツールを用いて実践を行った。

保健分野では、知識の整理、新たな課題の創出、表現活動での資料として用いた。体育分野においては、運動の課題発見や目標設定、運動の違いや特性の整理、出来映えや課題を他者に伝えるときの資料として用いた。教材研究をする中で、思考ツールを活用する際は、生徒たちに「どのようなことを考えさせたいか」という目的を考え、評価との結びつきをもちながら活用することで、より効果的な活用へと繋がることわかった。

これまで活用してきた内容を整理し、目的、方法、成果と課題を明記して思考ツール活用事例集を作成した。



(3) 共生の視点に立った指導内容の工夫・・・教材・教具の工夫について

【教材の工夫(ハンディキャップゲーム)】

バドミントンの授業を構想する中で、「公正・公平」の態度について思考・判断・表現しやすいゲーム性を考える必要があった。そこで、生徒自らハンディキャップを自己決定しゲームを行う方法を開発した。自陣のコートを9分割にし、3つのエリアにマーカーを置いて、互いの条件に合わせてゲームを行う。互いの条件が違う中で、いかにフェアプレイを意識しながらゲームできるかがカギとなる。第2回研究部会では、模擬授業の中で教師が生徒役となり、実際に行いながら改善点を出し合った。



【教具の工夫(ファミリーバドミントン・トクミントン)】

今回、運動が苦手な生徒も障害のある生徒も運動を楽しめるようにラケットの工夫を行った。空間認知が弱い子にとってラケット面にシャトルを当てることは非常に困難なことである。そのつまずきを解消しようと、ファミリーバドミントンという競技のラケットを使用して授業を行った。このラケットは柄が短く、ラケット面が手に近くなるのでラケット面にシャトルが当たりやすくなった。しかし、それでもラケット面にシャトルが当たらない生徒がいたので、ラケット面を更に大きくし、どのような生徒でもラケット面にシャトルを当てることができるようなラケットの開発を行った。宮崎県中学校体育連盟研究部の徳淵教諭に協力していただき、トクミントンラケットを制作することができた。



【ファミリーバドミントン】



【トクミントンラケット】

7 成果と課題

成果

- 学習内容系統表並びに学習内容相関図の作成及び活用を行ったことで、理論研究が深まり、明確で根拠ある単元計画の作成や授業の構想をすることができた。
- 思考ツールの活用を行ったことで、生徒たちの思考、判断、表現の活動が活発になり、教師側も「何を考えさせたいのか」という目的をもって授業を構想することができた。また、評価との結びつきを意識した活用をしたことで効果的な活用を図ることができた。
- 教材・教具の工夫によって、誰でも運動を楽しめる授業づくりができ、生徒一人一人が取り残されることなく授業を展開することができた。

課題

- 体育分野の思考ツールの活用において、運動量の確保という点で欠点があるため、今後は効率的に活用する方法を検討する必要がある。
- 教材の工夫に関して、技能のレベルアップを図るためだけのゲームの工夫ではなく、今回のような「学びに向かう力、人間性等」を育成するための教材を考えていくことが必要である。

1 単元名 保健分野 「健康と環境」(環境の汚染と保全)

2 単元の目標

- (1) 身体对环境に対する適応能力・至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理、生活に伴う廃棄物の衛生的管理などの健康と環境について、理解することができるようにする。(知識)
- (2) 健康と環境に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 健康と環境について健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、「中学生学習指導要領 保健体育編」の「保健分野 (4)健康と環境」である。本単元の内容は、「(4)健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。(ア)健康と環境について理解を深めること。(イ)健康と環境に関する情報から課題を発見し、その課題に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。」とある。このため、主として身体に直接関わりのある環境を取り上げ、人間の身体は、環境の変化に対してある程度まで適応する生理的な機能を有すること、また、身体の適応能力を超えた環境は生命や健康に影響を及ぼすことがあること、さらに、飲料水や空気を衛生的に保ったり、生活によって生じた廃棄物は、衛生的に処理したりする必要があることなどの知識と健康と環境に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成されている。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、在籍数33名である。班活動では、課題解決に向けて自分の意見を出したり、協議して意見をまとめたりするなど意欲的に取り組む生徒が多いが、自分の考えを表現することが苦手で、自ら発表しようとする生徒も少ない傾向にある。そこで、環境問題について、思考ツールの活用について、自分の今の力についてなどのアンケートを実施したところ、以下のような結果であった。

| アンケート内容 | | とても そうだ | まあまあ そうだ | あまりそ うでない | 全くそ うでない |
|---------|----------------------------|------------|-------------|--------------|-------------|
| ① | 環境問題に関心があるか | 53% | 39% | 7% | 0% |
| ② | 世界・日本・宮崎県・日南市の環境問題を知っているか | 21% | 25% | 50% | 4% |
| ③ | 思考ツールを使った保健の授業は好きですか | 39% | 54% | 7% | 0% |
| ④ | 課題解決に向けた学習に自主的に取り組む事は好きですか | 50% | 39% | 11% | 0% |
| ⑤ | 情報を収集したり情報を整理したりすることは好きですか | 36% | 39% | 25% | 0% |
| ⑥ | 筋道を立てて他者に伝えることは好きですか | 21% | 43% | 36% | 0% |
| ⑦ | 自分の考えを表現することは好きですか | 25% | 32% | 39% | 4% |
| ⑧ | 他者と話し合っって考えを深めることは好きですか | 61% | 29% | 11% | 0% |
| ⑨ | 課題解決に向けて学んだ知識を活用することは好きですか | 29% | 61% | 11% | 0% |
| ⑩ | 今まで環境について学習したことについて | | | | |

このことから、環境問題については関心をもっている生徒が多く、ある程度の知識はある。思考ツールの活用については、授業で使用することに関して肯定的な考えをもっている生徒が多く、以前と比べると使いこなせるようになってきている。話し合い活動については、話し合いの中で考えを深めることが好きな生徒が多かったが、自分の考えを表現したり、筋道を立てて他者に伝えたりすることについては苦手な生徒もいることが分かった。

(3) 学習を進めるにあたって

単元を構成するに当たっては、主体的・対話的で深い学びにつなげるためにICTを活用した授業を展開させ、「健康と環境」の全授業で思考ツールを使った授業を行うこととした。ロイロノートの思考ツールを使用することで、思考を可視化し、思考を整理することができ、課題に対して、新たな気付きが生まれ、話し合い活動が活発になり、さらに思考が深まると考えた。思考ツールは、授業の導入の段階では「考えを広げる」ために使用し、展開段階で考えを「分類」、「構造化」、「見通す」、「順序付ける」、「多面的にみる」、「比較する」等、より深く思考する手立てとして活用した。また、まとめの段階では、自分の思考や知識を「整理する」際に活用した。

本時においては、導入段階では、国や企業の環境問題についての取組を紹介することで、生徒に課題解決を行うための視点を与え、授業に対する意欲を喚起したい。展開段階では、前時、調べた環境問題の中で自分が気になった問題の解決に向けた取組について個人で考えさせたい。その後生徒が意欲的に関わることができる班活動を取り入れ、積極的に意見交換をさせることで、主体的・対話的で深い学びにつなげ、これからの社会で必要とされる企画力・発想力・プレゼン力を鍛えていきたい。また、解決策を考える際に自分の意見を広げたり、仲間に提案をする際に他者に筋道を立てて分かりやすく表現したりできるように、思考ツールを活用していきたい。これらの活動を通して、南那珂地区の研究主題に迫っていきたい。

4 単元の評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------|--|---|--|
| 単元の評価規準 | <p>① 身体には、環境の変化に対応した調節機能があり、一定の範囲内では環境の変化に適応する能力があること、また、体温を一定に保つ身体の適応能力には限界があること、その限界を超えると健康に重大な影響が見られることから、気象情報の適切な利用が有効的であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>② 温度、湿度、気流の温熱条件には、人間が活動しやすい至適範囲があること、温熱条件の至適範囲は、体温を容易に一定に保つことができる範囲であること、その範囲は、学習や作業などの種類により異なることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③ 水は、人間の生命の維持や健康な生活と密接な関わりがあり重要な役割を果たしていること、飲料水の水質については一定の基準が設けられており、水道施設を設けて衛生的な水を確保していること、飲料水としての適否は科学的な方法によって検査し、管理されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④ 室内の二酸化炭素は、人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること、そのため、室内の空気が汚れてきているという指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できること、空気中の一酸化炭素は、主に物質の不完全燃焼によって発生し、吸入すると一酸化炭素中毒を容易に起こし、人体に有害であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑤ 人間の生活に伴って生じたし尿やごみなどの廃棄物はその種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> | <p>① 健康と環境に関わる原則や概念を基に、収集した情報を整理したり、習得した知識を個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見し、課題解決に取り組み、健康を保持増進する方法を選択している。</p> <p>② 健康と環境について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、疾病等のリスクを軽減し、健康を保持増進する方法を選択し、他者と話し合ったり、ワークシートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p> | <p>① 健康と環境について、課題の解決に向けた学習活動に自主的に取り組もうとしている。</p> |

5 指導と評価の計画（8時間）

| 時間 | 1校時 | 2校時 | 3校時 | 4校時 |
|-------------|--|---|---|--|
| | 環境の変化と 適応能力 | 活動に適した環境 | 室内の空気の条件 | 水の役割と 飲料水の確保 |
| | <p>○ 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。</p> <p>○ 身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。</p> | <p>○ 快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。</p> | <p>○ 空気は、健康と密接な関わりがあること。また、空気を衛生に保つには、規準に適合するよう管理する必要があること。</p> | <p>○ 飲料水は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水を保つには、基準に適合するようよう管理すること。</p> |
| 主な学習内容・学習活動 | <p>1 人の体温の変化を予想する。</p> <p>2 なぜ人の体温は変わらないのか考えさせる。</p> <p>3 本時のねらいを確認する。</p> <p>4 暑いときと寒いときの体の反応について理解する。</p> <p>5 体には適応能力があることを理解する。</p> <p>6 適応能力の限界について、知りたいことを調べる。 【KWL】</p> <p>7 本時のまとめ、次時の確認をする。</p> | <p>1 本時のねらいを確認する。</p> <p>2 暑さ・寒さの感じ方や至適温度について理解する。</p> <p>3 学校や家庭で明るい方がよい場所を考えて、並びかえる。 【ピラミッドチャート】</p> <p>4 明るさを調節する必要があるのはなぜかを理解する。</p> <p>5 学んだことをもとに考える。 【Yチャート】</p> <p>6 本時のまとめ、次時の確認をする。</p> | <p>1 本時のねらいを確認する。</p> <p>2 もし～ならどうなるか予想して理由も考える。 【キャンディーチャート】</p> <p>3 二酸化炭素による影響について理解する。</p> <p>4 一酸化炭素による影響について理解する。</p> <p>5 換気の必要性について理解する。</p> <p>6 学んだことをもとに考える。</p> <p>7 本時のまとめ、次時の確認をする。</p> | <p>1 水について自分が知っている知識を確認する。 【ウェビング】</p> <p>2 本時のねらいを確認する。</p> <p>3 水の役割について理解する。</p> <p>4 飲料水がどのように確保されているか理解する。</p> <p>5 学んだことを自分の言葉でまとめる。 【ウェビング】</p> <p>6 学んだことを活用して考える。</p> <p>7 本時のまとめ、次時の確認をする。</p> |
| 評価機会等 | | | | |
| 知 | ①ワークシート タブレット | ②ワークシート タブレット | ④ワークシート | ③ワークシート タブレット |
| 思 | | ①タブレット | ①タブレット | |
| 態 | (①観察) | | | (①観察) |
| 関連する項目 | | | | |
| 道徳科との関連 | 『海とストロー』 | | | |

| 時間 | 5校時 | 6校時 | 7校時 | 8校時(本時) |
|-------------|--|---|---|---|
| | 生活排水の処理 | ごみの処理 | 環境の保全 | 環境の保全 |
| | ○ 人間の生活に伴って生じたし尿などの生活排水は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。 | ○ 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分に配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。 | ○ 環境の汚染が健康に与える影響とそれらを改善する必要があることについて課題を見いだしていること。 | ○ 環境汚染問題について習得した知識を、課題解決に役立てたり、他者と話し合ったりすることで、よりよい解決策を導き出し、筋道を立てて伝え合うこと。 |
| 主な学習内容・学習活動 | <ol style="list-style-type: none"> なぜ写真のようになったのか考える。 本時のねらいを確認する。 し尿生活排水の処理について理解する。 世界の水質汚染問題について調べる。 水の汚染を防ぐための工夫や方法を考える。 【座標軸】 本時のまとめ、次時の確認をする。 | <ol style="list-style-type: none"> 本時のねらいを確認する。 ゴミの分別の仕方を考える。 どんなごみ問題があるか調べる。 【くまでチャート】 3Rについて調べる。 3Rについて自分の優先順位を考える。 【ピラミッドチャート】 ゴミ問題を解決する企画を考える。 【キャンディーチャート】 プロジェクトチームで企画を仕上げ全体で提案する。 3Rの理想の取り組みを知る。 本時のまとめ、次時の確認をする。 | <ol style="list-style-type: none"> 日本で起こった公害とその原因について知っていることをあげる。 本時のねらいを確認する。 環境汚染の健康への影響とその対策について理解する。 近年の環境問題について調べる。 【フィッシュボーン】 調べたことを班の仲間とまとめる。 班でまとめたことを新たなグループで発表する。 自分が気になる環境問題の課題について考える。 【ピラミッドチャート】 本時のまとめ、次時の確認をする。 | <ol style="list-style-type: none"> 本時の目標を確認する。 企業や個人の環境汚染問題の対策について知る。 環境問題を解決するためにどのようなことができるか考える。 【キャンディーチャート】 自分の考えたことを班員に伝え、意見交換を行う。 自分の意見をブラッシュアップする。 【キャンディーチャート】 ブラッシュアップした解決策を『出張提案会』で提案する。(動画撮影) 本時の目標に対しての自己評価とこれからの自分の目標を考え、発表する。 本時のまとめを行う。 本単元のまとめを行う。 |
| 評価機会等 | | | | |
| 知 | | ⑤ワークシート タブレット | ⑤ワークシート タブレット | |
| 思 | ②タブレット | ②タブレット 観察 | | ②タブレット (観察・ワークシート) |
| 態 | | | | ①観察 |
| 関連する項目 | | | | |
| 道徳科との関連 | 『海とストロー』 | | | |

6 本時の学習

(1) 本時の目標

- 環境汚染問題について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、思考ツールなどを活用したりして、筋道を立てて伝え合うことができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- 健康と環境について、課題の解決に向けた学習活動に自主的に取り組むことができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の学習評価

- 環境汚染問題について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、思考ツールなどを活用したりして、筋道を立てて伝え合おうとしている。(思考・判断・表現)
- 健康と環境について、課題の解決に向けた学習活動に自主的に取り組もうとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

7 学習指導過程 (8/8)

| 段階 | 学習内容及び学習活動 | 指導上の留意点 | ○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】 | 努力を要する状況と判断される生徒への手立て |
|---|--|--|---|---------------------------------------|
| 導入 | 1 企業や個人の環境汚染問題の対策について知る。 | ○ 本時の学習への意欲を喚起し、解決策の視点をもたせるために、取組事例の映像等を視聴させる。 | | |
| | 2 本時の目標を確認する。 | ○ 本時の学習に繋げるために、これまでの学習を振り返る。 | | |
| ○ 習得した知識を活用して環境問題の解決策について考え、筋道を立てて伝え合おう。 本時のミッション 【プロジェクトチームの仲間と環境問題を解決するための最善策を考えよ！】 | | | | |
| 展開 | 3 環境問題を解決するためにどのようなことができるか考える。 【キャンディーチャート】 | ○ 自分が気になった環境問題の解決策を考えやすくするために、今まで学んだ知識を活用するように助言する。 | | |
| | 4 自分の考えたことを班員に伝え、意見交換を行う。 | ○ 自分の意見をブラッシュアップできるように、仲間からの参考意見をメモしながら話し合うように助言する。 | | |
| | 5 自分の意見をブラッシュアップする。 【キャンディーチャート】 | ○ 自分の提案が具体例や根拠を入れて筋道を立てて伝えられるようになっているか確認させる。 | ○ 環境汚染問題について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、思考ツールなどを活用したりして、筋道を立てて伝え合おうとしている。 (タブレット) 【Aの例】 環境問題の解決策を、具体例や科学的な根拠を入れて筋道を立てて伝えている。 | ○ 話形のスタイルを参考にさせて筋道を立てて伝え合えるように支援する。 |
| | 6 ブラッシュアップした解決策を『出張提案会』で提案する。 | ○ 本時の目標により迫るために、仲間の提案を具体例や科学的な根拠を基に筋道を立てて提案しているかという視点をもって聞くよう指示する。 | | |
| まとめ | 7 本時の目標に対するの自己評価とこれからの自分の目標を考え、発表する。 | ○ アンケートを用いて、本時の目標に対するの自己評価を行うよう指示する。 | ○ 健康と環境について、課題の解決に向けた学習活動に自主的に取り組もうとしている(観察) 【Aの例】 これまで学んだことをこれからの自分の生活と結びつけ、粘り強く自主的に取り組んでいる。 | ○ これまで学んだことをまとめた思考ツール等を具体的に示して振り返らせる。 |
| | 8 本時のまとめを行う。 | | | |
| | 9 本単元のまとめを行う。 | ○ これまで学んだことを自分の生活に結び付けさせる。 | | |